

## 平成 21 年 3 月期 決算関連補足資料

I. 連結財務ハイライト	1
II. 連結損益計算書	2
III. 連結貸借対照表	5
IV. 連単倍率、連結子会社、従業員数、MR数	7
V. 四半期業績の推移	7
VI. 個別財務ハイライト	8
VII. 株式の状況	9
VIII. 開発状況表	10
IX. 主な開発品のプロフィール	14

平成 21 年 5 月 11 日

### 大日本住友製薬株式会社

- ・本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しています。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。
- ・本資料の数字は四捨五入で表示しています。四捨五入のため、合計数字に差異が生じる場合があります。

## I. 連結財務ハイライト

## 1. 損益計算書項目

(億円)

	20年3月期	21年3月期		22年3月期		22年3月期	
	通期実績	通期実績	増減率%	2Q累計予想	増減率%	通期予想	増減率%
売上高	2,640	2,640	0.0	1,306	△ 2.8	2,640	—
売上原価	994	1,037	4.4	522	△ 1.2	1,065	2.7
販売費及び一般管理費	1,248	1,291	3.5	656	3.6	1,325	2.6
販売費・一般管理費	775	763	△ 1.6	389	0.9	780	2.2
研究開発費	473	528	11.7	267	7.7	545	3.2
営業利益	398	312	△ 21.7	128	△ 29.6	250	△ 19.8
経常利益	377	314	△ 16.6	124	△ 31.9	240	△ 23.6
当期(四半期)純利益	256	200	△ 21.9	78	△ 28.2	150	△ 25.0

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。  
増減率は対前年同期実績に対する増減率を記載しております。

1株当たり当期純利益(円)	64.39	50.30	37.75
自己資本当期純利益率(ROE)	8.2%	6.2%	4.6%
連結配当性向	28.0%	35.8%	47.7%

## 2. 貸借対照表項目

(億円)

	20年3月末	21年3月末	増減額
総資産	3,998	3,913	△ 85
純資産	3,183	3,245	62
自己資本	3,182	3,244	62
自己資本比率	79.6%	82.9%	

## 3. 設備投資および減価償却費の状況

(億円)

	20年3月期	21年3月期		22年3月期	
	通期実績	通期実績	増減額	通期予想	増減額
設備投資額(無形固定資産を含む)	155	106	△ 49	130	24
減価償却実施額	111	107	△ 4	120	13

・平成 22 年 3 月期の主な設備投資

技術研究本部 製剤開発機能集約工事

9.0 億円 (総予算 9.0 億円、平成 22 年 1 月完成予定)

## 4. キャッシュ・フロー計算書項目

(億円)

	20年3月期	21年3月期	増減額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	325	263	△ 62	・20年3月期 親会社への短期貸付実施 △400億 ・21年3月期 有形固定資産の取得 △136億 (鈴鹿工場新固形製剤棟他) 親会社への短期貸付増額 △100億
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 510	△ 213	297	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 69	△ 118	△ 49	
現金及び現金同等物の期末残高	563	495	△ 68	・21年3月期 長期借入金の返済 △46億

## II. 連結損益計算書

## 1. 損益計算書

(億円)

	20年3月期		21年3月期			
	通期実績		通期実績	増減額		増減率%
売上高	2,640		2,640	0	0.0	(増収要因) ・新製品(ロナセン・アバプロ)の寄与 ・新規生産受託の開始 (減収要因) ・薬価改定の影響 ・アムロジンの減収
海外売上高	245		221	△ 25	△ 10.1	
売上原価	994		1,037	44	4.4	・薬価改定や棚卸資産の評価に関する会計基準の適用による原価率上昇(37.6%→39.3%)
売上総利益	1,646		1,603	△ 43	△ 2.6	
販売費及び一般管理費	1,248		1,291	43	3.5	・新製品(ロナセン・アバプロ)の発売に伴う増加  ・ルラシドンの海外臨床開発の進展に伴う増加
人件費	323		329	6	1.7	
広告宣伝費	59		53	△ 6	△ 10.1	
販売促進費	94		108	14	14.6	
その他	299		273	△ 26	△ 8.6	
販売費・一般管理費	775		763	△ 12	△ 1.6	
研究開発費	473		528	56	11.7	
営業利益	398		312	△ 86	△ 21.7	・たな卸資産廃棄損、評価損は当期より売上原価に含めて表示
営業外収益	31		30	△ 1		
営業外費用	52		27	△ 25		
経常利益	377		314	△ 63	△ 16.6	・控訴審判決の結果に基づく引当金戻入
特別利益	38		11	△ 27		
訴訟損失引当金戻入額	—		11	11		
投資有価証券売却益	38		—	△ 38		
特別損失	—		3	3		
投資有価証券評価損	—		3	3		
税金等調整前当期純利益	415		322	△ 93	△ 22.4	
法人税等	158		122	△ 36		
少数株主利益	1		0	△ 1		
当期純利益	256		200	△ 56	△ 21.9	

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

## 2. 事業の種類別セグメント情報

(億円)

	20年3月期 通期実績			21年3月期 通期実績			22年3月期 2Q累計予想			22年3月期 通期予想		
	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計
売上高	2,087	553	2,640	2,068	572	2,640	1,016	290	1,306	2,042	598	2,640
営業利益	387	11	398	298	13	312						

## 3. 主要製品の販売状況

医薬品(国内)

(リポート控除前、億円)

品 目 [薬 効]	20年3月期 通期実績	21年3月期 通期実績	増減額	増減率	22年3月期	
					2Q累計予想	通期予想
ア ム ロ ジ ン [高血圧症・狭心症治療薬]	636	579	△57	△9.0%	253	480
ガ ス モ チ ン [消化管運動機能改善剤]	195	202	7	3.4%	104	210
プ ロ レ ナ ー ル [末梢循環改善剤]	145	148	3	2.1%	77	155
メ ロ ペ ン [カルバペネム系抗生物質製剤]	148	148	0	0.1%	66	129
エ バ ス テ ル [持続性抗アレルギー剤]	111	106	△5	△4.1%	33	86
ス ミ フ ェ ロ ン [天然型インターフェロソールα製剤]	60	60	△0	△0.7%	30	60
グ ロ ウ ジ ェ ク ト [ヒト成長ホルモン製剤]	43	43	0	0.4%	23	46
ド プ ス [ノルアドレナリン作動性 神経機能改善剤]	41	38	△3	△7.7%	18	36
エ ク セ グ ラ ン [抗てんかん剤]	35	36	0	0.9%	19	38
キ ュ バ ー ル [吸入ステロイド喘息治療剤]	43	36	△7	△16.7%	14	30
グ リ ミ ク ロ ン [経口血糖降下剤]	39	36	△3	△8.4%	17	34
ロ ナ セ ン [統合失調症治療剤]	—	34	34	—	28	65
メ ル ビ ン [経口血糖降下剤]	28	34	5	17.7%	19	39
ア ム ビ ゾ ー ム [深在性真菌症治療剤]	25	31	5	20.0%	19	43
ア ル マ ー ル [高血圧症・狭心症・不整脈 治療剤]	32	30	△2	△5.1%	15	29
ル ー ラ ン [抗精神病剤]	30	28	△2	△5.4%	14	27
タ ガ メ ッ ト [H <sub>2</sub> 受容体拮抗剤]	33	27	△5	△16.1%	12	24
セ デ ィ ー ル [セロトニン作動性抗不安薬]	30	27	△2	△8.3%	13	26
ア バ プ ロ [高血圧症治療剤]	—	15	15	—	21	60

新製品

ト レ リ ー フ [パーキンソン病治療剤]	—	1	1	—	4	11
---------------------------	---	---	---	---	---	----

## 医薬品(海外)

(億円)

品 目 [薬 効]	20年3月期 通期実績	21年3月期 通期実績	増減額	増減率	22年3月期	
					2Q累計予想	通期予想
メ ロ ペ ネ ム [カルバペネム系抗生物質製剤]	181	162	△18	△10.0%	92	158
ゾ ニ サ ミ ド [抗 て ん かん 剤 ]	3	10	7	246.3%	2	4
モ サ プ リ ド [消化管運動機能改善剤]	17	10	△7	△40.3%	6	12

(注)22年3月期より、中国の現地法人「住友製薬(蘇州)有限公司」を連結するため、22年3月期予想には、中国での現地売上高を含んでおります。

## 工業所有権収入

(億円)

	20年3月期 通期実績	21年3月期 通期実績	増減額	増減率	22年3月期	
					2Q累計予想	通期予想
工 業 所 有 権 収 入	35	32	△3	△9.0%	18	31

## (海外売上高)

(億円)

	20年3月期 通期実績	21年3月期 通期実績	増減額	増減率	22年3月期	
					2Q累計予想	通期予想
海 外 売 上 高	245	221	△25	△10.1%	126	217
内、工業所有権収入	35	32	△3	△9.0%	18	31
(連結売上高比%)	(9.3%)	(8.4%)			(9.6%)	(8.2%)

## Ⅲ. 連結貸借対照表

[資産の部]

(億円)

科 目	20年3月末	21年3月末	対前期末 増減額
[ 資 産 の 部 ]	3,998	3,913	△ 85
( 流 動 資 産 )	2,511	2,635	125
現 金 及 び 預 金	282	220	△ 62
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	864	798	△ 66
有 価 証 券	301	345	44
た な 卸 資 産	485	545	60
短 期 貸 付 金	400	500	100
繰 延 税 金 資 産	134	171	38
そ の 他	49	60	12
貸 倒 引 当 金	△ 3	△ 4	△ 1
( 固 定 資 産 )	1,487	1,278	△ 210
有 形 固 定 資 産	703	691	△ 12
建 物 及 び 構 築 物	398	395	△ 3
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	101	110	10
土 地	100	100	—
建 設 仮 勘 定	62	40	△ 21
そ の 他	43	46	3
無 形 固 定 資 産	58	64	6
投 資 そ の 他 の 資 産	726	522	△ 204
投 資 有 価 証 券	443	340	△ 104
繰 延 税 金 資 産	16	37	21
そ の 他	269	146	△ 123
貸 倒 引 当 金	△ 3	△ 1	2
資 産 合 計	3,998	3,913	△ 85

・定期預金減少、  
譲渡性預金増加

・親会社への短期貸付の増額

・有価証券時価評価による減少

・長期預金の払戻し

	20年3月期	21年3月期
売 上 債 権 滞 留 月 数	3.93ヵ月	3.62ヵ月

## [負債純資産の部]

(億円)

科 目	20年3月末	21年3月末	対前期末 増減額
[ 負 債 の 部 ]	815	668	△ 147
( 流 動 負 債 )	679	533	△ 146
支払手形及び買掛金	165	185	20
1年内返済予定の 長期借入金	46	—	△ 46 ← ・長期借入金の返済
未払法人税等	109	63	△ 46
賞与引当金	82	81	△ 1
返品調整引当金	1	1	△ 0
売上割戻引当金	5	4	△ 0
訴訟損失引当金	11	—	△ 11
未払金	228	169	△ 59 ← ・鈴鹿工場新固形製剤棟建設 費用の支払による減少
その他の	33	30	△ 3
( 固 定 負 債 )	136	134	△ 1
退職給付引当金	88	93	5
役員退職慰労引当金	0	0	0
その他の	48	42	△ 6
[ 純 資 産 の 部 ]	3,183	3,245	62
( 株 主 資 本 )	3,065	3,192	127
資 本 金	224	224	—
資 本 剰 余 金	159	159	—
利 益 剰 余 金	2,688	2,816	128
自 己 株 式	△ 6	△ 6	△ 1
( 評 価 ・ 換 算 差 額 等 )	117	52	△ 65
その他有価証券評価差額金	117	52	△ 65 ← ・有価証券時価評価による減少
( 少 数 株 主 持 分 )	1	1	0
負債純資産合計	3,998	3,913	△ 85

## IV. 連単倍率、連結子会社、従業員数、MR数

## 1. 平成 21 年 3 月期 連単倍率

(億円)

	連結	個別	差額	倍率(倍)
売上高	2,640	2,484	156	1.06
営業利益	312	306	6	1.02
経常利益	314	309	5	1.02
当期純利益	200	197	3	1.01

## 2. 連結子会社の状況 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

	設立年月	資本金	持株比率
五協産業株式会社	昭和22年10月	100百万円	96.3%
DSファーマバイオメディカル株式会社	平成13年4月	480百万円	100%

3. 従業員数 (平成 21 年 3 月 31 日現在) : 連結… 4,787 人、個別… 4,646 人

4. MR数 (平成 21 年 3 月 31 日現在) : 1,420 人…マネージャー除く、1,620 人…マネージャー含む

## V. 四半期業績の推移

(億円)

	平成20年3月期				平成21年3月期			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高	653	634	705	648	701	642	676	621
売上原価	254	228	259	253	278	250	260	249
販売費及び一般管理費	278	305	337	328	321	312	322	336
販売費・一般管理費	185	201	196	193	195	191	186	191
研究開発費	93	104	141	135	127	121	135	145
営業利益	121	102	109	66	102	80	94	36
営業外収益	11	4	10	6	10	4	12	4
営業外費用	4	13	8	28	4	10	3	10
経常利益	128	94	111	44	108	74	102	29
特別利益	-	-	-	38	-	-	-	11
特別損失	-	-	-	-	-	-	-	3
税金等調整前四半期純利益	128	94	111	82	108	74	102	37
四半期純利益	78	60	69	49	64	44	62	29

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。



## VI. 個別財務ハイライト

## 1. 損益計算書項目

(億円)

	20年3月期		増減率%	22年3月期		22年3月期	
	通期実績	通期実績		2Q累計予想	増減率%	通期予想	増減率%
売上高	2,478	2,484	0.3	1,216	△ 3.6	2,450	△ 1.4
売上原価	862	912	5.8	455	△ 1.2	931	2.1
販売費及び一般管理費	1,221	1,266	3.7	633	1.9	1,280	1.1
販売費・一般管理費	750	739	△ 1.4	367	△ 1.7	737	△ 0.3
研究開発費	471	527	11.9	266	7.5	543	3.0
営業利益	395	306	△ 22.5	128	△ 29.1	239	△ 21.9
経常利益	380	309	△ 18.7	125	△ 31.0	230	△ 25.5
当期(四半期)純利益	254	197	△ 22.4	77	△ 29.5	141	△ 28.5

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。  
増減率は対前年同期実績に対する増減率を記載しております。

1株当たり当期純利益(円)                      63.99              49.65    35.49

## 2. 貸借対照表項目

(億円)

	20年3月末	21年3月末	増減額
総資産	3,948	3,870	△ 77
純資産	3,170	3,230	60
自己資本比率	80.3%	83.5%	

## VII. 株式の状況 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

1. 発行可能株式総数 1,500,000,000株
2. 発行済株式の総数 397,900,154株 (自己株式580,814株)
3. 株主数 16,912名
4. 大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
	千株	%
住 友 化 学 株 式 会 社	199,434	50.12
稲 畑 産 業 株 式 会 社	27,282	6.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 ( 信 託 口 )	16,587	4.17
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	10,530	2.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 ( 信 託 口 )	10,195	2.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 ( 信 託 口 4 G )	7,179	1.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	7,000	1.76
住 友 生 命 保 険 相 互 会 社	5,776	1.45
ニッセイ同和損害保険株式会社	4,928	1.24
第 一 生 命 保 険 相 互 会 社	3,248	0.82

## Ⅷ. 開発状況表 (平成 21 年 5 月 11 日現在)

## ■ 国内で開発中の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	備考
申請中	SM-11355 注射剤	ミリプラチン水和物 miriplatin hydrate	肝細胞癌	自社	用時溶解剤
	SMP-862 経口剤	メトホルミン塩酸塩 metformin hydrochloride	糖尿病	Merck Santé 社	肝糖新生抑制作用・インスリン抵抗性改善作用
申請中 新効能	アムビゾーム AmBisome 注射剤	アムホテリシンB amphotericin B	(適応症追加) 適応菌種の追加	Gilead Sciences 社	既承認適応症: (深在性)真菌感染症、真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症
	メロペン MEROPEN 注射剤	メロペネム水和物 meropenem hydrate	(適応症追加) 発熱性好中球減少症	自社	既承認適応症: 種々の細菌による中等度以上の感染症

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	備考
第Ⅲ相	SMP-508 経口剤	レパグリニド repaglinide	糖尿病	Novo Nordisk 社	速効型インスリン分泌促進剤
	SM-13496 経口剤	ルラシドン lurasidone	統合失調症	自社	日本・韓国・台湾の共同治験

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	備考
第Ⅱ相	AS-3201 経口剤	ラニレスタット ranirestat	糖尿病合併症	自社	杏林製薬(株)との共同開発
	DSP-8153 経口剤	アムロジピンベシル酸塩 amlodipine besilate イルベサルタン irbesartan	高血圧症	自社	配合剤

開発 段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	備考
第 I 相	SMP-986 経口剤	未定	過活動膀胱	自社	
	DSP-3235 経口剤	未定	糖尿病	キッセイ薬品 工業㈱	SGLT1 阻害剤
	DSP-3025	未定	気管支喘息・ アレルギー性鼻炎	自社	

## 【2009 年 2 月 第 3 四半期決算発表時点からの主な変更点】

トレリーフ(ゾニサミド)  
 ガスモチン適応症追加  
 DSP-8153  
 DSP-3025  
 AC-3933

発売したため削除  
 承認されたため削除  
 第 II 相に新規掲載  
 第 I 相を開始  
 開発中止のため削除

## ■ 海外で開発中の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	開発国/地域	備考
第Ⅲ相	SM-13496 経口剤	ルラシドン lurasidone	統合失調症 双極性障害	自社	米国・欧州等	
	アムルビシン塩 酸塩 注射剤	アムルビシン 塩酸塩 amrubicin hydrochloride	小細胞肺癌	自社	中国	国内販売名: カルセド

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	開発国/地域	備考
第Ⅱ相	SMP-986 経口剤	未定	過活動膀胱	自社	米国・欧州	

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	起源	開発国/地域	備考
第Ⅰ相	SMP-028 経口剤	未定	気管支喘息	自社	米国	
	DSP-7238 経口剤	未定	糖尿病	自社	欧州	DPPIV阻害剤
	DSP-8658 経口剤	未定	糖尿病	自社	米国	PPAR $\alpha/\gamma$ モジュレーター

## 【2009年2月 第3四半期決算発表時点からの主な変更点】

AC-3933

開発中止のため削除

## ■ 海外導出品の開発状況

一般名／コード名 (日本での販売名)	予定適応症	開発状況
AG-7352	癌	2003 年 10 月、Sunesis 社に全世界の独占的開発権をライセンス 同社が北米で第Ⅱ相試験実施中(同社開発コード:SNS-595)
SMP-601	重症感染症	2005 年 5 月、Protez Pharmaceuticals 社へ欧米での開発・販売権 をライセンス 同社が米国で第Ⅱ相試験を実施中(同社開発コード:PZ-601)
アムルビシン 塩酸塩 (カルセド)	小細胞肺癌	2005 年 6 月、Celgene 社(旧 Pharmion 社)へ欧米での開発・販売 権をライセンス 同社が欧米で第Ⅲ相試験を実施中
ラニレスタット AS-3201	糖尿病合併症	2005 年 9 月、エーザイ(株)に日本を除く全世界の開発・販売権をラ イセンス 同社が海外第Ⅲ相試験の計画を検討中
ドロキシドパ (ドプス)	透析時の低血圧・ 神経障害による 起立性低血圧	2006 年 5 月、Chelsea 社に日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発・販売権をライセンス 同社が透析患者の低血圧に対する第Ⅱ相試験を米国で実施中 また、神経障害による起立性低血圧に対する第Ⅲ相試験を欧米で 実施中
DSP-3025	気管支喘息・ アレルギー性鼻炎	2005 年 3 月、AstraZeneca 社と開発販売契約を締結 同社は日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の開発販売権を持つ 同社が欧州で第Ⅰ相試験を実施中

## 【2009 年 2 月 第 3 四半期決算発表時点からの主な変更点】

なし

## IX. 主な開発品のプロフィール (平成 21 年 5 月 11 日現在)

**SM-11355 (ミリプラチン水和物) 肝細胞癌治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、脂溶性白金錯体で、油性造影剤 (ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル) に懸濁して肝動注する。油性造影剤を担体として用いることで、腫瘍部位に選択的に滞留し、長期間徐放性に活性体を放出させることができる。臨床試験において、全身性の副作用、非癌部への影響が軽度で、強い抗腫瘍効果を発揮することが示されている。
- ・ 開発段階：申請中 (国内)

**SMP-862 (メトホルミン塩酸塩) 糖尿病治療剤**

- ・ Merck Santé 社から導入
- ・ 本剤は、インスリン分泌促進を伴わず、肝糖新生抑制作用、末梢での糖取り込み促進作用等を介して血糖降下作用を示す特長を持つメトホルミン塩酸塩製剤である。当社は、1961年にメトホルミン塩酸塩を含有する「メルビン錠」を日本で最初に自社開発・販売しているが、欧米の承認効能効果、用法用量とは異なっている。近年の欧米での大規模試験の臨床知見の蓄積を受け、日本人における適切な効能効果、用法用量を設定する臨床試験を実施し、国内糖尿病治療に資することを目指している。
- ・ 開発段階：申請中 (国内)

**SMP-508 (レパグリニド) 糖尿病治療剤**

- ・ Novo Nordisk 社から導入
- ・ 速効型インスリン分泌促進剤。食後血糖上昇の抑制に加え、空腹時血糖やHbA1cの低下が期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅢ (国内)

**SM-13496 (ルラシドン) 統合失調症・双極性障害治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ ドーパミン-2、セロトニン-2、-7 受容体に対する強力な拮抗作用と、セロトニン-1A 受容体に対する高い親和性を有している。統合失調症及び双極性障害に対して優れた効果を示すとともに、錐体外路系や心臓系に対する作用および体重増加等について高い安全性を有すると期待される。
- ・ 開発段階：フェーズⅢ (米国・欧州等)、フェーズⅢ (国内；日本・韓国・台湾の共同治験)

**AS-3201 (ラニレスタット) 糖尿病合併症治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病合併症の一つである糖尿病性神経障害を改善する。同種薬剤に比べ、酵素阻害作用が強く、作用持続が長い。ヒト神経内への本剤の移行、用量依存的な神経内ソルビトール、フルクトースの蓄積阻害が臨床試験で確認されており、これまでに得られた試験成績から本剤による神経機能および症状の改善効果が期待される。
- ・ 2005年9月に海外の開発・販売権についてエーザイ㈱とライセンス契約を締結した。同社が海外フェーズⅢの計画を検討中。
- ・ 開発段階：フェーズⅡb (国内、杏林製薬㈱との共同開発)

**DSP-8153 高血圧症治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ カルシウム拮抗薬アムロジピンベシル酸塩とアンジオテンシン II 受容体拮抗薬イルベサルタン

の配合剤。イルベサルタンまたはアムロジピン投与では十分な降圧効果が得られない患者にも強い降圧効果が期待される。また、腎保護作用のエビデンスを有するイルベサルタンと脳・心保護作用の豊富なエビデンスを有するアムロジピンの配合剤であることから、脳・心・腎保護作用が期待される。

- ・ 開発段階：フェーズⅡ（国内）

#### SMP－986 過活動膀胱治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、ムスカリン受容体に対する拮抗作用に加え、Na チャンネル阻害作用による求心性神経の過活動を抑制する作用を有する。これらの作用により、尿意切迫感、排尿及び尿失禁の回数をより効果的に減少させる過活動膀胱治療剤になることを期待している。ムスカリン-3 拮抗作用に由来する副作用（口渇）との分離も期待できる。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（米国・欧州）、フェーズⅠ（国内）

#### DSP－3235 糖尿病治療剤

- ・ キッセイ薬品工業㈱からの導入品
- ・ 本剤は、ナトリウム依存性グルコース共輸送担体 1 (SGLT1) に対する選択的阻害薬である。これまでの  $\alpha$ -GI 剤とは異なる新しい作用メカニズムにより消化管からの糖吸収を抑制する食後高血糖改善剤となることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズⅠ（国内）

#### DSP－3025 気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、Toll-like receptor 7 (TLR7) に対するアゴニスト作用を有する免疫調節剤であり、気管支喘息、アレルギー性鼻炎において長期寛解をもたらす治療薬になることを期待している。
- ・ 当社における新しい作用メカニズムのアレルギー性疾患治療剤の探索研究において見出された有望化合物群が契機となって 2004 年より AstraZeneca 社と新規アレルギー性疾患治療剤に関する共同研究を実施することとなり、その成果として本剤を見出した。
- ・ 2005 年 3 月に AstraZeneca 社と共同開発販売契約を締結した。契約に基づき当社は日本、中国、韓国、台湾を開発・販売テリトリーとし、AstraZeneca 社はこれら 4 カ国を除く全世界を開発・販売テリトリーとして本剤を共同で開発する。同社が欧州でフェーズⅠを実施中。
- ・ 開発段階：フェーズⅠ（国内）

#### SMP－028 気管支喘息治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、気管支喘息の病態形成に関与する主要な炎症細胞に対して、炎症系のメディエーターを抑制するなど、幅広い作用を示す。喘息モデルにおいて有効性を示す結果を得ており、強い抗炎症作用を有する新規メカニズムの喘息治療剤になることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズⅠ（米国）

#### DSP－7238 糖尿病治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、DPPⅣ阻害薬であり、主に GLP-1 を介したインスリン分泌促進作用により高血糖を改善する。GLP-1 分解酵素である DPPⅣに対する選択的な阻害作用を有し、かつ、強力な薬効を示すことから、より良好な血糖コントロールを示す DPPⅣ阻害剤となることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズⅠ（欧州）



**D S P - 8 6 5 8 糖尿病治療剤**

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体（PPAR） $\alpha$ および $\gamma$ の賦活化作用を有する PPAR  $\alpha/\gamma$ モジュレーターである。糖代謝改善作用に加えて脂質代謝改善作用を併せ持ち、循環血漿量増加・体重増加等の副作用を持たない次世代のインスリン抵抗性改善薬となることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズ I（米国）

以 上